



## 芝生の生育環境と品種

### ○芝生の生育環境

芝生が健全に生育するためには光、水、土の環境を整えることが大切です。

特に光は大切で、**一日6時間以上の日照**を確保するようにしましょう。

また、踏圧に耐える（土が締りすぎない）基盤づくりや芝生を休ませる工夫を行うことが大切です。

### ○芝生の品種

校庭の気象や日照、利用頻度、管理条件を踏まえ選定しましょう。

⇒ ティフトンやノシバがよく使われます。

【芝生の生育を阻害する要因例】



## 芝生の基盤を整えよう

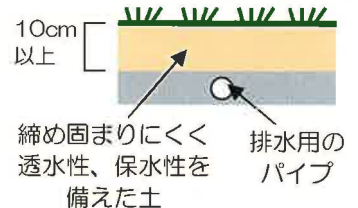
○利用者**1人あたり10㎡以上、できれば15㎡程度**の芝生面積を確保しましょう。

○芝生を張る前に、耕運や土壌改良、雑草の除去を行うと根つきやすくなります。

○土壌は芝生にとって重要な生育基盤であるため、可能な限り厚みを確保します。

⇒ **最低でも10cm以上**確保するのが望ましいでしょう。

○土壌は芝となじみやすく、**透水性と保水性**を兼ね備えたものが理想です。また、**排水**にも留意します。



## 施工する際の注意点

○施工後には、**転圧、目土**を行い、**十分な灌水**を行います。

○施工後の養生は、可能な限り長期間確保します。（夏休みの間に密度の高い芝生をつくるのが大切です）

○張り芝の植栽適期は**3月～5月**ですが、播種の適期は、暖地型、寒地型、品種等により異なるため、業者等に確認する必要があります。ポット苗定植の適期は**6月**です。



張り芝  
短期間で造成可能



ポット苗  
一定の間隔で苗を植えていき、横に伸ばす。低コスト

## 芝生を健康に育てよう

芝生は気象の変化や病気により、急に状態が悪くなることがあります。被害が大きならないためにも、**1週間に1度**はよく観察し、異常が見つかったら速やかに対応しましょう。

### 刈込み

○芝生が伸びてきたら、適宜刈込みを行います。

⇒ **3~4cm**（仕上がり高）を目安に刈込みます。

⇒ 刈込みはほふく茎の発生を促進し、蒸散量を制限するため水やりが軽減できます。

※芝生が伸びると根元に光が当たらなくなり、ほふく茎が発生しにくくなります。

○芝生は刈り込み回数を増せば増すほど密度が高くなり、美しく、良い芝生になります。生育旺盛な時期には特に刈り込み回数を増やします。

⇒ 刈り込みを十分に行えば、**雑草の生育も抑えられる**とともに、雑草が生えていても見栄えが悪くなりません。

○芝生の根元までの極端に低い刈り込みは厳禁です。

⇒ **1/3以上は刈り込まない**ようにしましょう。

※草丈が伸び、成長点（細胞分裂が活発な葉や茎をのばす場所）の高くなった芝草を低く刈り込むと、芝生は成長しなくなります。

○刈り込みした葉は除去します。（通気性、透水性、景観性の低下）

⇒ 刈り込みの頻度を上げると葉の発生も抑えられます。



手押し式は小回りがききますが大面積の芝生には不向きです。また、刃の切れ味にも注意します。



芝生の成長点は根元近くにありま

### 水やり

○芝生の状態をよく観察し、葉が巻くなど、水切れの兆候が見られたら灌水しましょう。

⇒ 暖地型芝生は**4月~11月頃**まで灌水が必要です。

⇒ 毎日の灌水は芝生の根の発達を妨げるので控えましょう。

※施工や補修後の1カ月は毎日の水やりが必要です。

○特に運動会の後や芝生の上でイベントを行なった後、施肥後、芝刈り後などは灌水が必要です。

○大面積の芝生の場合、芝生用スプリンクラー等の設置を検討しましょう。



スプリンクラー

### 施肥

○施肥は**月1回**を目安に行います。肥料の成分や施用量、施用方法は、目的に応じて決定します。肥料はホームセンター等でも購入できます。

⇒ 化成肥料の場合、**普通化成肥料**（8-8-8）を芝生面積**1㎡**に対して**20~40g**を目安とし与えます。

⇒ 夏芝の場合は化成肥料を中心とし、適宜有機肥料を与えるとよいでしょう。

○傷んでいる部分には多めに与え、施肥後はたっぷり散水しましょう。



## ■オーバーシード

○暖地型芝生の上から、秋に冬芝の種をまくことをオーバーシードといいます。暖地型芝生のグラウンドは冬の休眠時期に利用すると傷みがはげしくなるので、オーバーシードすることで保護できます。

- ➡ **芝の種類によっては相性が悪いものもあるため注意が必要です。**  
たとえば、ティフトンにはペレニアルグラスを使います。  
※オーバーシードをした後は 2~3 週間程度の養生期間が必要です。



オーバーシードの様子

## ■土壌の更新

○芝生の更新を促すために目土を行うことが望ましいです。

- ➡ **芝生萌芽後の 4 月~9 月の間に 4~10mm の厚みで川砂または市販の目土用土壌を敷き込みます。**

○表面に凹凸ができれば速やかに土を入れて均します。

○通気・排水性を高めるとともに、芝生の萌芽促進を図るためにエアレーションを行います。(地面に穴を開ける)

- ➡ **適期は梅雨前です。**



エアレーション作業

## ■補修

○大きな枯損部分があり、補修が必要な時には、枯損要因を考慮したうえで、張り芝・苗の移植・播種などによって補修を行います。  
補修は 5 月末~7 月ぐらいが適期です。

- ➡ **芝生のあるところから苗を採取し、補修すると手間がかかりません。**

- ➡ **健全な芝生の育成場所を確保しておく**と補修が容易になります。

○目土かけを行うと周囲の芝生の茎が伸びて元の状態に戻ります。



ポット苗による補修

## 管理スケジュール例

植栽場所の環境や品種によってスケジュールは変わります。



## こんな事例があります



東播磨の事例。児童が裸足で利用している。



ポット苗による芝生整備の例。美しい芝生で覆われている。

## Q & A

こんなときはどうするの???

### Q 施工から使い始めるまでの期間はどれぐらいですか？

○1～3カ月の養生期間が必要です。特に最初の1カ月は管理頻度をあげて、しっかり手入れすることで丈夫で美しい芝生になります。

### Q 芝生を長持ちさせる方法は？

○芝生を健全に育成するためには芝生を休ませることが大切です。土日など定期的に休ませる日をつくりましょう。また、運動会など芝生を激しく使って擦り切れたりはげた場合は3週間ほど養生することで芝生が回復します。

### Q 利用制限などのルールづくりは必要ですか？

○運動会後のオーバーシード等による養生や入学式に向けての芝生の育成など、学校行事とあわせた管理方法を考えることが大切です。

○「体育の授業で使用する場所を日によって変える」、「野球のホームベースやサッカーのゴールの位置を変える」、「土日の利用をしたり、一定期間午前中のみを利用して芝生を休ませる」など、使い方を工夫することで芝生を長期間良い状態で維持することが可能です。

○夏休みや冬休み、春休みをうまく利用するなど、利用スケジュールにあわせた効率的な管理を行うことで管理手間を軽減できます。

### Q 水たまりができるのですがどうしたらよいですか？

○目土により土が盛り上がり、表面に凹凸があると水たまりができます。表面の凹凸は目土を入れるなどで均しましょう。また、表面排水の方向性や勾配のつけかたに配慮しましょう。

○部分的に排水不良がある場合は、その部分の芝生をはずして土を入れ替えるなど、基盤の見直しを行うとよいでしょう。

詳しくは下記までお問い合わせください

■(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

TEL : 078-918-2405 FAX : 078-919-5186

<http://www.hyogo-park.or.jp/midori/>

〒673-0847 明石市明石公園1番27号